

| | | | | |
|--------------------------|--|------|---|--|
| 1. 科目名 (単位数) | 肢体不自由教育 I (2 単位) | | 3. 科目番号 | SSMP2352 |
| 2. 授業担当教員 | 柳本 雄次 | | | SSMP2452 SNMP2452 SCMP2452 SBMP2452 |
| 4. 授業形態 | 講義、グループ討議 | | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | | | | |
| 7. 講義概要 | 本科目では、肢体不自由児の特徴を理解するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援や教育のあり方、指導計画の立て方、指導の実際、評価など、それぞれの留意点について論じる。また、重度重複障害や医療的ケアを要する児童生徒への医療との連携による教育のあり方、肢体不自由児の自立を目指した教育を実践していくうえで、将来的展望に立って、教師に求められる役割や、指導、支援のあり方について考察する。 | | | |
| 8. 学習目標 | 【期待される効果】以下に関して理解し、説明することができる。 ① 肢体不自由児の発育・発達・健康特性に関する基礎知識 ② 肢体不自由児教育の歴史と今日的な課題 ③ 重度重複障害児のニーズに応じた指導と医療的ケア ④ 自立活動の意義や肢体不自由児の具体的な指導のあり方 | | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | ・アサインメント 事前・事後学習で学び、まとめた成果 ・グループ課題 自立活動指導の授業案の作成・発表 ・レポート課題(A4 1~2枚 1200字~1500字程度) 肢体不自由教育の特徴について論述 | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】特に指定しない。 【参考書】安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』ミネルヴァ書房、2015 篠田達明監修『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』金芳堂、2010 | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 1. 肢体不自由教育における自立活動を理解し、説明できるか。 2. 自立活動の個別の指導計画や指導案づくりを理解し、現場に対処できるようになっているか。 ○評定の方法 以下を総合的に検討し、判断する。 1 積極的参加 (発言、討議、態度、シートの取り組み等) 総合点の40% 2 レポート (模擬授業、テストを含む) 総合点の60% *なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。 | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 毎回事前学習として配付資料を読んで疑問や意見を基に積極的に討議に参加することを期待する。事後にはその整理と自分の意見をまとめる。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 別途通知する | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | |
| 第1回 | オリエンテーション 肢体不自由の定義・原因・分類・発達特性 | 事前学習 | 肢体不自由(児)とは何か、知識と経験をまとめる。 | |
| | | 事後学習 | 肢体不自由と他の身体障害の用語上の異同を理解する。 | |
| 第2回 | 肢体不自由児教育の歴史的展開~先進国ドイツにおける光と影~ | 事前学習 | 欧米諸国の肢体不自由児教育の発達を読んでおく。 | |
| | | 事後学習 | 光と影について整理し、意見をまとめる。 | |
| 第3回 | 肢体不自由児教育の歴史的展開~日本における草創期のパイオニア~ | 事前学習 | 日本の肢体不自由児教育のパイオニアについて、資料を読み調べておく。 | |
| | | 事後学習 | 高木憲次と柏倉松蔵の思想の比較、光明学校の教育の特徴をまとめる。 | |
| 第4回 | 肢体不自由児教育における教育課程の特徴~学習指導要領の変遷からみた~ | 事前学習 | 障害の重度・重複化と教育課程の変遷を調べておく。 | |
| | | 事後学習 | 学習指導要領の各改訂における変更、多様な教育課程の類型の特徴をまとめる。 | |
| 第5回 | 肢体不自由児教育における自立活動の指導 | 事前学習 | 自立活動とは何か、他の各教科等との違いを考える。 | |
| | | 事後学習 | 自立活動の目標、区分についてまとめる | |
| 第6回 | 肢体不自由児教育の授業づくり~個別の指導計画・個別の支援計画との関係~ | 事前学習 | 学習指導要領の規定、個別の指導計画、個別の教育支援計画について調べる。 | |
| | | 事後学習 | 授業づくりにおける要領と個別の計画との関係を理解する。 | |
| 第7回 | 肢体不自由児の専門的な指導法(1)運動の発達と運動機能の改善 | 事前学習 | 運動機能の発達法則と脳性まひの発達特性を知る。 | |
| | | 事後学習 | 運動機能の障害改善の方法について理解する。 | |
| 第8回 | 肢体不自由児の専門的な指導法(2)感覚・知覚の発達と障害改善 | 事前学習 | 感覚・知覚機能の発達過程を調べる。 | |
| | | 事後学習 | 感覚・知覚機能の障害改善の方法を理解する。 | |
| 第9回 | 肢体不自由児の言語・コミュニケーションの発達と指導(AAC他) | 事前学習 | 言語・コミュニケーションの発達過程を調べる。 | |
| | | 事後学習 | 言語・コミュニケーションの発達を促進する指導法を理解し、説明できる。 | |
| 第10回 | 重度・重複障害児の発達特性と健康保持~摂食・呼吸指導と医療的ケア~ | 事前学習 | 資料を読み、重度・重複障害児の発達特性を調べる。 | |
| | | 事後学習 | 呼吸及び摂食障害と学校における医療的ケアの状況を理解する。 | |
| 第11回 | 肢体不自由児の家族への支援~障害の心理的受容~ | 事前学習 | 家族の養育負担、障害の受容過程について調べる。 | |
| | | 事後学習 | 家族の養育負担の軽減や障害受容の促進のための支援についてまとめる。 | |
| 第12回 | 通常学校における肢体不自由児への対応~通常学校の受入れと合理的配慮~ | 事前学習 | 肢体不自由児の通常学校の受入れについて考える。 | |
| | | 事後学習 | 通常学校で肢体不自由児支援に必要な対応について施設設備、教育内容、人的環境から検討しまとめる。 | |
| 第13回 | 自立活動指導の授業案づくり① | 事前学習 | 個別の指導計画に基づく授業案づくりの構想を練る。 | |
| | | 事後学習 | 作成した授業案を再検討する。 | |
| 第14回 | 自立活動指導の授業案づくり②発表・討議 | 事前学習 | 授業案発表を準備する。 | |
| | | 事後学習 | 発表した授業案の改善についてまとめる。 | |

| | | | |
|------|--|------|----------------------------------|
| 第15回 | ライフステージ、関係機関の連携からみた 肢体不自由児教育の現状と今日的課題 | 事前学習 | ライフステージ、関係機関連携からみた肢体不自由児の現状を調べる。 |
| | | 事後学習 | 肢体不自由教育の今日的課題について考えをまとめる。 |
| 期末試験 | | | |